

2

血液製剤は病院など医療機関という限られた場所で使われており、また、血液製剤の種類によっては、特定

血液事業に携わる関係者は幅広く、国、都道府県や市町村、日本赤十字社をはじめ、血液製剤の製造販売業者、製造業者、販売業者、実際に製剤を使用する医療機関、患者の方々、そして、献血に協力してくださる企業やボランティア、国民のみなさん。このように多くの人々の協力により、血液事業は成り立っています。ひとりでも多くの人を救いたい、そんなひとりひとりの思いがこれからの血液事業を発展させていくのです。

輸血を支えているのは
善意の献血です

れな、喉を絞るほどまじ
が細胞と同時に正常なものが
が壊れ、これが原因で死
今でも疑いがある。た
その時に必要になった
輸血をした。10月9日の開
け手術は50回も続え、
の輸血に献血者も人分の
が必要だったそうです
4歳の男の子は、そのこ
息妹と別れて、またた
「なんでも進んでくれる
い間にも、母のきま
はぼろぼろ泣いてまし
「体中から汗を流す
に力が必要であつた
さ、それまでずっと何も
ならぬ人な、血をも

A cartoon illustration of a medical scene. On the left, a male doctor with grey hair, wearing a white lab coat and a stethoscope, waves his right hand. In the center, a female nurse with red hair, wearing a pink uniform and a nurse's cap, stands next to a white medical machine with a red button. On the right, a male patient with orange hair, wearing a white hospital gown, sits in a grey chair. A small computer monitor is on a desk in front of him. The background is a solid light yellow color.

● 献血ルームなど

献血ができる場所は、お医者さんや看護士さんの他にも呼びかけなくして、ボランテアがあります。

献血には、一度も献血を受けた人は献血できない、という決まりがありますので、輸血によって生きる力をもらった人が、ボランテアで献血の仕組みを支えていることも多いのです。

日本赤十字社 血液センター
 献血された血液を患者さんに輸血で
 与えるために、血液の安全性を検査し、
 病院に届けるための準備をしています。
 また、献血をしもらった血液を
 成分ごとに分けて、目的にあった輸血
 用の血液を作ったり、保管したりする
 大切な役割もあります。

では入院をしている人の手術用や、交通事故などの緊急用に血液が必要になるため、血液センターと密接に連絡を取り合っています。緊急時に備え、より多くの血液を確保する必要があります。

交通事故など不慮の災害などの時に輸血は必要です。一般にそのイメージが強くなりますが、実際血液の使われ方では意外にも事故は少なく、もっとも輸血が必要な場面は病気の治療です。病気のうち半分ががん治療で、むしろすけんがたかったら単にがん細胞をその一つでした。

保存がきかない血液

輸血の使用状況(不詳を除く)

死因	割合
病気	83.5%
※うち35.4%ががん(白血病を含む)	
その他	12.9%
損傷、中毒及びその他の外因	3.0%
妊娠分娩	0.6%

(平成21年 東京都福祉保健局)

(平成21年 東京都福祉保健局調べ)